

第45回香川県環境審議会計画部会議事録

令和2年3月25日（水）

議 題	<p>(1) 第44回環境審議会計画部会における意見等について</p> <p>(2) 基本目標・施策体系について</p> <p>①香川県環境基本計画</p> <p>②香川県地球温暖化対策推進計画</p> <p>③香川県廃棄物処理計画</p>
配付資料	<p>(1) 第45回香川県環境審議会計画部会次第</p> <p>(2) 資料1 第44回環境審議会計画部会での委員の発言要旨および県の考え方・対応等</p> <p>(3) 資料2 県政世論調査結果の散布図</p> <p>(4) 資料3 第45回環境審議会計画部会（説明用資料）</p> <p>(5) 資料4 香川県環境基本計画 施策体系</p> <p>(6) 資料5 環境基本計画の各施策とSDGs 17の目標との関連表</p> <p>(7) 資料6 香川県地球温暖化対策推進計画 施策体系</p> <p>(8) 資料7 香川県廃棄物処理計画 施策体系</p>
会議録 署名委員	<p>妹尾 理子 委員</p> <p>吉田 英子 委員</p>
議事の概要	<p>議題（1）について</p> <p>第44回環境審議会計画部会における意見等について報告した。</p> <p>議題（2）について</p> <p>「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」の基本目標・施策体系について審議した。</p>

第45回 香川県環境審議会計画部会 議事概要

<p>司会 (石川副課長)</p>	<p>それでは、定刻が参りましたので、始めさせていただきます。 会議に入ります前に、委員の皆様方に御報告がございます。 当審議会は、平成12年6月の第13回環境審議会において、原則公開と決定いたしましたことから、本日の議事につきましても、公開となります。 本日の審議会計画部会の開催を一般に周知いたしましたところ、傍聴希望者が、ただいま1名となっております。環境審議会傍聴要領に基づき、部会長の許可をいただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>はい、結構です。</p>
<p>司会 (石川副課長)</p>	<p>それでは、傍聴者の方を入場させます。 (傍聴者入場) ただいまから、香川県環境審議会計画部会を開催いたします。 開会に当たりまして、木村環境森林部長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>木村部長</p>	<p>(部長挨拶)</p>
<p>司会 (石川副課長)</p>	<p>引き続きまして、増田部会長から御挨拶いただきたいと存じます。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>(部会長挨拶)</p>
<p>司会 (石川副課長)</p>	<p>ありがとうございます。 私は本日の会議を進行させていただきます、環境政策課の石川と申します。どうぞよろしく願いいたします。 本日の資料の確認及び審議事項の説明をさせていただきます。 まず資料でございますが、資料1から7まででございます、 ・資料1 第44回環境審議会計画部会での委員の発言要旨および県の考え方・対応等 ・資料2 県政世論調査結果の散布図 ・資料3 第45回環境審議会計画部会（説明用資料） ここまでは、A4判の資料を事前にお送りさせていただいております。 資料4から7ですが、こちらは、A3判になります。 ・資料4 香川県環境基本計画 施策体系 ・資料5 環境基本計画の各施策とSDGs 17の目標との関連表 ・資料6 香川県地球温暖化対策推進計画 施策体系 ・資料7 香川県廃棄物処理計画 施策体系 となっております。 また、今日御審議いただくのは、環境基本計画、地球温暖化対策推進計画、廃棄物処理計画の、3つの計画の基本目標及び施策体系ということになっておりまして、資料3の3ページにまとめております。3ページに環境の将来像、4ペー</p>

ジに基本目標の見直し案を記載しております。太字が現行計画から見直す箇所となっております。

また資料3の17、18ページが地球温暖化対策推進計画の基本目標等がございます。さらに23ページが、廃棄物処理計画の基本目標等を記載しておりますので、ご確認いただければと思います。

各計画の施策体系ですが、資料4、6、7、それぞれになりますが、左側に現行計画の施策体系、右側に次期計画の施策体系案を示しております。それぞれ表の中に基本目標を示しております。施策体系の中で黄色に着色をしておりますところについては、現行計画から変更があるということでございます。

資料の1から7でございますが、お手元でございますでしょうか。

お持ちでない方はいらっしゃいませんか。

そうでしたら、御報告です。

本日御出席いただいております委員は12名中7名で、香川県環境審議会条例第7条第2項に定められております「委員の2分の1以上の出席」という開会の定足要件を満たしておりますことを御報告申し上げます。

それでは、これからの議事の進行につきましては、環境審議会条例第7条第1項の規定により、増田部会長に議長として議事進行していただきたいと存じます。

増田部会長

それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。まず、議題に入ります前に、本審議会運営規程第4条第2項により、本日の会議録に署名していただく委員を指名させていただきます。

妹尾委員、吉田委員に、本日の議事録の署名をお願いいたします。

(妹尾委員、吉田委員了解)

それでは早速ですが、議事に入らせていただきますが、本日の議題は「香川県環境基本計画」、「香川県地球温暖化対策推進計画」及び「香川県廃棄物処理計画」の基本目標及び施策体系についてであります。事務局から最初に御案内にありましたとおり、本日の審議会は新型コロナウイルス感染防止の対策を講じたうえで開催しておりますことから、会議の時間も14時を目途に終了したいと存じます。委員の皆様におかれましては、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

このため、事務局からの説明を省略し、早速ですが質疑に入りたいと存じます。

はじめに、藤本委員さん、勝浦委員さんから事前に御意見等の送付があったようですので、まずは藤本委員さんから御発言をお願いします。

藤本委員

1点目。資料3の11ページから16ページの施策の方向性についてです。6施策を列挙されておりますが、なぜこの6政策だけとされたのかを教えてください。これらが新しいものだから、重要なものだから列挙されたのでしょうか。D評価の数、満足度、重要度という観点からすれば、生活環境分野における施策の方向性の検討も必要だと感じました。

2点目。資料2の散布図についてです。前回から工夫をされて見やすくはなりましたが、「どちらともいえない」が縦に2か所ある点が気になりました。

秋山次長	<p>3点目。8ページから10ページのSDGsの関連表については分かりやすく表示されており、とても勉強になりました。できればこの資料について、何らかの形で皆さんに配布する段階で反映できるものになればいいと思います。</p> <p>環境森林部次長の秋山でございます。</p> <p>まず1点目の資料3の11ページから16ページの施策の関係です。この6つの施策を列挙した理由ということでございますけれども、これにつきましては、近年の情勢等も踏まえた新しい施策や、大きな変更点があった施策を取り上げております。委員御指摘のとおり、生活環境分野の施策につきましては評価が不十分で、当然ながら重要なところでございますので、このあたりの内容につきましては、今後、骨子案を作る中で、検討していきたいと考えてございます。</p> <p>2点目ですけれども、資料2の散布図です。この世論調査をした時に、5段階でお答えをいただいておりますと、右上の四角にありますとおり、満足である、やや、どちらともいえないという、設問になっております。その表現をそのまま入れておりますけれども、「どちらともいえない」の見せ方がちょっと混乱するという御意見と受けとめておりますので、さらに工夫し、場合によっては除く等検討したいと思っております。</p> <p>最後、資料5のSDGsの関連表です。こちらは最終の計画を作った後に、県民の皆様にお示しする時に見せ方も含め、検討していきたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
増田部会長	藤本委員さん、よろしいでしょうか。
藤本委員	はい。
増田部会長	<p>それから、勝浦さんからも御提出いただいたということで、ちょっと今日まだ、来られておりません。事務局から御紹介…</p> <p>勝浦委員さん、今来られました。来られてすぐで申し訳ありませんが、事前にお送りいただいた意見について紹介をお願いします。</p>
勝浦委員	<p>資料4に関してですが、3-3に「水循環の促進」というのがあります。こちらにできれば「水循環教育の充実」というのを入れていただきたらと思います。水の関係の講座をさせていただきますと、先生に、知らなかったことがあったと言っただけのこともあります。水の重要性については節水についてはよく聞きますが、水を汚さないことが一番の節水、水を大切にすることになりますから、「水循環教育の充実」というのを入れていただきたらと思います。</p> <p>それから、3-1「循環型社会づくりの推進」です。いろいろなところで分別に取り組んでいるのですが、なかなか進まない。家庭、地域では分別が進んでいますが、イベントとなると難しい。何年前前からモンスターバッシュや年明けうどんに出ささせていただいていますが、ごみ分別の細やかな指導が重要だと思います。日常の習慣につながることでありますし、食品ロスの削減、プラスチック容</p>

器、海ごみを削減する意識も上がると思います。

東京都の小池知事の受け売りになるんですが、ぜひ、ごみ分別指導員、ナビゲーターの育成を香川でもしてほしい。バックヤードはすごく汚いです。企業の方も協力して分別をしますが、なかなか広がらない。広がればいいと思っています。

秋山次長

まず1点目の、水環境教育の充実ということです。県としては、これまでも、県内小学生への節水副読本の配布でありますとか、環境キャラバン隊による「水生生物調査」や「水質調査」等の出前授業も実施してございます。また、夏休み親子環境学習講座で、水の循環や海ごみ問題などについて講座を行っております。

施策体系の中で御説明いたしますと、いわゆる環境教育でありますとか、環境学習につきましては、資料4の一番上の、施策展開の1-1-1です。ここに、「幅広い場における環境教育・環境学習の推進」という施策展開を案としてお示ししてございまして、こういった中で、水の重要性や水を汚さない生活を勉強していくことを含めて、検討していきたいと思っておりますので、御理解いただければと思います。

2点目は、イベント会場等でのごみの分別の指導の重要性ということと、人材育成、指導者の育成といった話しであったかと思えます。イベントの時のごみの分別というのは本当に重要でして、大阪市の北区では毎年実施している区の行事で発生した事業系ごみのリサイクルの着手ということで、区民祭りの当日に、ボランティアを募って徹底した分別を行い、4割超のリサイクルに成功したといった記事を見ております。そういった事例も参考にしながら、県としてもこれまでも様々な人材育成ということで、環境部門でも努めておりますけれども、今後は、御指摘のごみの分別の啓発を含めて、人材育成を検討していきたいというふうに考えております。

金子委員

資料2の、県政世論調査結果（散布図）ですけど、新しくされたこの資料を見まして、緑色と、茶色で、「身のまわりの環境」と「行政の環境への取組み」が、区別されている。全体的な傾向は、「身のまわりの環境」の方は、右上にきていて、「行政の環境への取組み」の方は、左下の方ですが、その中で「廃棄物の不法投棄対策」っていうのは非常に離れ、満足度が低いという傾向が出ていました。

前回お配りいただいた資料5に、満足度の実際の表があるのでそれを拝見しました。「行政の環境への取組み」の満足度です。「廃棄物の不法投棄対策」というのがなんで低いのかとみますと、「どちらともいえない」というのが38.6%で全体の中で一番高い。同じように見ていきますと、「地球温暖化対策」というのも、「どちらともいえない」というのが52.7。それから「環境に関する情報提供の取組み」、これは60.5、「環境教育・環境学習機会の提供」62.6と、こういうふうになっており、「どちらともいえない」というのが高いですね。

この「どちらともいえない」というのを、おそらくアンケートを出した側は、評価が自分としてはできないので「どちらともいえない」というふうな形で設定されたと思うんですが、その場合は、自分の情報を照らし合わせて、その評価が中程度であるということだと思えます。この「どちらともいえない」を別の言

い方をすると、情報がないから判断できないなという見方もできるんですね。

というのは、「どちらともいえない」の左側にある「とても満足している」「まあ満足している」というのは、自分なりの評価として、プラス側に採点できる、それから右側の「やや不満である」「とても不満である」というのは、自分なりの情報やイメージとの関係の中で、マイナスだということがある。

ところが、「どちらともいえない」というのは、そういうふうにとれる場合と、情報持っていないから、「どちらともいえない」んだという評価の仕方でもできるのではないか。

だから、あまりにもここの割合が高いということが持っている意味は、そういうことの反映ではないかと考えると、「廃棄物の不法投棄対策」というのが、非常に離れて低いというのも、実際、行政の側がどういうふうにならざるを得ないことに対してやっているのかということの情報が、十分キャッチできていなくて、低かったのではないかなという見方もできるのではないのかと思った。

ですから、アンケートの設定の問題と、それを評価しようとしてデジタル化していく過程でもう少し考えていただくとありがたいのかな。そのあたりのところも、考慮して、これからの対策を考えていただくことが必要かなと思いました。

それから2番目の点は、資料3のところですね。先ほど環境教育、環境学習のことが出てきましたが、資料3のところ、11ページのところで、各施策の方向性で「幅広い場における環境教育・環境学習の推進」ということで、今回も重要視されているのですが、ここのところの現況とか取り組みを見ると、環境教育や環境学習というのは、参加という形が一つの大きなワードになっていると思う。

参加ってというのは、あるところに人が入るというイメージ。例えば講習会とか研修会とか、実際に作業に参加する、一時的にある時間にある場に入ることが、環境教育や環境学習の今までのあり方じゃないのかなと思うんですね。

ところが、人にとってこういう学習をして、継続的に物を考えていこうとした場合には、場が保証されていて、それで継続的にその場の中に自分が入り込んでいくということ。公が設定した参加の日だけじゃなくて、自分の自由な時にある場の中に入りこんで、ここでまた研修するとかいうふうな、右側の【これまでの取り組み】ってところの「学びの場」がちゃんと保障される。そうふうなところの中で初めて、教育や学習の効果が現れてくる。

今までは参加、参加ってというふうなことで、そういうふうな学びの場を保証していく…学びの場ってというのは瞬間的な学びの場ではなく継続的な学びの場を保証していくということも考えながら、取り組んでいただけたらありがたい。

最後に資料5です。ここに各施策とSDGsの関連、関係が見える。私はすごくありがたいんですが、つけられるものには○、◎などで軽重をつけるべきだと思う。例えば環境教育・環境学習では4番が◎とすれば、ばらばらと提示しているのではなくポイントを置きながら施策活用されているっていうイメージが出てくるのではないかなと思う。

秋山次長

御意見ありがとうございます。

全体的に、検討していきたいと思います。

	<p>1点目につきましては御指摘のとおり、項目によっては高いものでは6割を超えて「どちらともいえない」という満足度の回答もありますので、県側の情報発信のあり方など課題を検証していきたいと思えます。</p> <p>2点目の環境学習・環境教育につきましては、単発的な行事もあるんですけども、例えば里海大学のように継続して人材育成をしている事業もございますので、そういったところで必要な人材育成に努めて、育った人材の方々がさらに普及啓発をしていけるような取り組みの支援ということで、効果が広がっていけるような取り組みが必要かと思えます。</p> <p>3点目の、資料5に軽重がつけられないかということにつきましては検討していきます。</p>
金子委員	<p>里海づくりのお話が出たんですけど、私は、プラスチックごみの時に参加させていただきました。王越の小学校のところであったと思うんですけども、あの里海の方も、同じことです。要するにそういうのがいろんなところで行われる。だから、里海の問題に興味を持ったらここに行ったら里海の勉強できるんだとかいう形になってないんで、あるプログラムの中で、今回はここ、次はここという。学び場ということ考えると、継続して学習できる学べる場が必要ではないか。</p>
増田部会長	<p>里海大学がちゃんとプログラム作ってやっています、その海ごみの活動や講習もしています。それと別に、海ごみ拾いましょうとかを市がやったりとか、いろんな方がやったりしているのもあって、そのあたりとの違いがありますね。</p> <p>里海大学、里海づくり協議会としては、環境管理課長さんもおられます。かなり体系的な里海教育、座学も含めたプログラムで動かしています。それは多分…</p>
金子委員	<p>里海大学っていうものが、常時大学として場があってね。そこに行けば…</p>
増田部会長	<p>大学は組織ですけど、場所は作れませんけれどね。事務局としてちゃんとあって、いろんな活動があって、里海大学は私が言うのも変ですけども、かなりちゃんとやれているなと思えます。</p>
金子委員	<p>里海大学の組織そのものを否定しているわけではありません。そういう組織だけでなく、今の状況ではできないのかもしれないけど、常時大学が開校してそこに興味を持った人が参加できる…</p>
増田部会長	<p>年に何十回講座を開いてやっていますので。それを、知っている人は知っているけど、知らない人は知らない。</p> <p>環境管理課の方が事務局をいただいています。どうですか。</p>
環境管理課 小蓑課長	<p>環境管理課長 小蓑です。</p> <p>里海大学は、瀬戸内海を豊かな海にしようということで、人材育成を目的にスタートしておりまして、香川大学と県と共同で設置しております。キャンパスは</p>

<p>増田部会長</p>	<p>なく、フィールドを舞台としてやっていこうというのがコンセプトです。</p> <p>おっしゃられていた王越は拠点施設として、年に何回か講座もやっておりますし、香川大学のキャンパスの中に部屋を借りてやっているような状況ですが、特定の場所で、というのは今のところ考えていません。</p> <p>里海づくり協議会というのがありましたね。そこは森林組合、農業協同組合、漁業組合や消費者団体から入ってやってきたんですけど、そこで作ったビジョンをもとに里海大学でいろいろと具体的な活動をやっていきたいと思いますということ動いているんですけども、当初の各種県内のいろんな団体が集まってということで、それぞれの活動が、ちょっと今停滞していて、本当にいろんなところに情報がちゃんといきわたっているかということ、興味のある人、意識ある人が集まってくるというところはあると思いますので、もう少し広げていくという、そういうところはあると思うんですけども。</p> <p>里海づくりについては、事務局をちゃんと県がやってくれています。ただ、広めていきたいなということと、森の方のフォレストマッチングでは、企業の方から呼んでもらって、企業の研修活動に講師を派遣して、いろんなごみ拾いから環境問題から話すということも動き出しました。私が言い訳をしているようにですけども、やっていますので、さらにそれを広めていきたいなと思っています。</p>
<p>金子委員</p>	<p>僕は先生がやられていることを否定しているわけではありません。例えばどんぐり銀行なんかは、ある施設、場所がありますよね。あそこ行けば人がいて…</p>
<p>増田部会長</p>	<p>ドングリランド？</p>
<p>金子委員</p>	<p>ドングリランド。というふうなところがあると、いいんじゃないかなという意味で言ったんです。そこを学びの場というふうなことを考えていき、つなげていただきたい。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>王越なんかは一つの地域の人との拠点として…それはまた、事務局の方で考えている拠点がいくつかできていると思いますけれど。</p> <p>それから、来年度からドングリランドで里海大学の講座をしようという話もあります。そういうところで連携してやっていきたいと思っています。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>教育の話が出ていたので、私もお伝えしたいと思います。</p> <p>幅広い場における教育学習の推進というふうになることがちょっと引っかかるところがありまして、取り組み、環境学習は体験的な、フィールド的なものが重視されている気がして。</p> <p>環境教育というのは、広い意味で見ると情報提供ということで情報が幅広い人に伝わるのが大切だと思っています。施策の方向性で「幅広い場」というところに、機会ということも入ってくれば良いと感じました。</p> <p>そもそも情報提供というのも簡単ではないと思いますが、今、私が関わってい</p>

る学校教育では、いろんな形で教材を作ったり講習を行ったりということでやっているんですけど、やはり広げていくということは大変なので、情報を広く伝えていく手段や方法を模索するというか、探っていくということが、今後求められるような気がしています。

里海大学については今日たまたまホームページを見せてもらって、すごくいろいろやっているんだっていうことを、知ったところです。いろんな人に情報が伝わる必要があるなと感じています。それに関しては、資料4の施策展開のところにも、関わってくるかなと思うんですけど、1-1-2、これはどういったことを指しているのかを教えてください。「きっかけづくりの推進」ということがわからなかったのでお願いします。

環境政策課
武本課長

環境政策課長 武本です。

御質問のありました「きっかけづくり」についてです。いわゆる環境学習というところですが、先ほど金子先生からお話がありまして、皆さん関心が至っていないところがありまして、まずは入口を広げて、皆さんに環境というのとはどんなものかというのを知っていただきたいと考えています。その「きっかけづくり」を通じて「学びの場」につなぎたいと考えています。

具体的にどんなことをしているかという、毎年8月に環境学習会っていうのを、今年度はサンメッセでやりまして、3600人の方に参加していただいております。ここではいろんなブースを出しており、循環のものがあったり、自然的なものもあったり、地球温暖化に関して考えてもらうブースもあったりして、夏休みになっているので子ども達も体験になるようなことをしていただきながら、保護者も一緒に来てくれますのでそういったところで環境について関心を持ってもらいたいなと思っています。

また企業さんと連携をしながら、啓発活動というものができないかなというところで、例えば綾川イオンさんのイベントをいろいろとしている場所をお借りして、ブースを出してアンケートをしたりパンフレットをお配りしたりして、環境について意識をもってもらえたらというふうな活動をやっているところです。

増田部会長

情報提供の話ができました。きっかけづくり。環境学習会というイベントもありますけれども、日常的な情報提供、里海づくりもありますけれど、そういうところがまさに「きっかけ」だと思いますので、その具体的な施策のところ、**「多様な情報提供」**というのをに入れていただけたらと思います。

妹尾委員

資料3の3ページ、環境の将来ところで、「**県民みんなでつくる 人と自然が共生する持続可能な香川**」というフレーズですけど、なんとなくしっくりこないというか。何が引っかかるかという「人と自然が共生する」というすごく限定的なことがここにきていて、環境のいろんな施策を見ていると、このような自然だけではなく生活環境とか循環とか省エネルギーとか、いろいろあるそれをすべてまとめて「人と自然」としていいのかなと。

あと、「**持続可能な香川**」というところですが、いろいろと見てみたのですが、

「持続可能」の後に県名や都市名がくるということはあまり聞かないのですが。なんかそれは大丈夫かなと思って。持続可能でない香川も想定しているのかなど。どこを見ても、例えば東京とか愛知とか神戸とか見たけれど、ないんですね。どういふことで、どういふ意味が込められているかを教えていただきたい。

【考え方】の1番目なんですが「県民一人ひとりが環境保全活動に参加するように促していく」といふところが、やらせればいいといふ感じを受けてしまいます。今までを流れを見ると、県民一人一人が主体的に参加しようとするような機運を高めるとか、意識を養成するとか、中を変えていくといふことが大切かなと思っていて、言われたからする、みたいなのがちょっと気になりました。

それと同じ感覚で2番目もわかりづらいと思っただけですけども、「快適な生活環境を守り育てていく」といふところ。「守り育てる」態度や行動を促すとかつくとか、具体的な施策的な書き方をすればいいと思いました。

3番目は、SDGsといふのは非常に幅広い考え方なので、それに対しての、「人と自然が共生」といふのはすごく小さいことと感じました。

秋山次長

御意見ありがとうございます。

「人と自然が共生する」といふところの捉え方ですが、ここである「自然」といふのは、大きく見ていただきたいなといふふうに思いまして、人や、おっしゃられたエネルギーなどがうまく共生していくといふことで、御理解をいただければといふふうに思っております。

2点目の「持続可能な香川」といふ表現が、他の自治体であまり使われていないのではないかといふ御指摘なんですけども、これにつきましても中でも議論があったんですけども、SDGsの関係で「持続可能」といふ言葉が今、大きなトレンドといふことで、国の計画でも重視されているところです。いふことも含めて「持続可能な香川」と、ここに重きを置いて表現させていただいているところです。

次に3点目、考え方のところですが、「促していく」といふことですが、あくまでも「自発的な行動を促していく」といふこととさせていただきます。意識づけや、県民の皆様お一人お一人の内面に働きかけていくことが、もちろん必要であるといふことで認識をさせていただきます。

最後、SDGsの達成に貢献していくといふことで、SDGsの達成は県の次期の総合計画の中でも、こういった考え方に基づいて、作業を進めておりますので、そういった観点を踏まえて、SDGsの全ての項目といふことではないんですけども、環境基本計画が関連する項目については、SDGsの達成に貢献していくことで、考え方をお示ししております。

増田部会長

【考え方】で3つ書いてありますけれども、これは環境基本計画ができたときには、「環境の将来像」といふ一文ができて、それに関して説明文を作るんですかね。解説するような文がつくようであればいふ時に文章表現を、表現の問題だと思っておりますので、委員さんの御指摘を踏まえて考えていただけたらと思っております。

重要なのは四角で囲んだ「環境の将来像」です。これがボンと出ると思っております。

	<p>「県民みんなでつくる 人と自然が共生する持続可能な香川」という将来像の言葉、ここを妹尾先生が言われていると思うんですけど、持続可能な社会とか、そういう言い方はあると思います。香川県がつくるんだから、香川とあってもいいんだろうな。人と自然、「人」の中に工業化であるとか、人間が作ったものや都市化であるとか消費社会とかが入っていて、それと自然ということだろうと思うんですけど、そう読まれるかどうか、そんなところですね。</p> <p>妹尾委員さんどうですか。</p>
妹尾委員	<p>皆さんの御意見を伺いたいと考えていて、「県民」というところに香川県民が絶対に入っているんだろうなと思っていて、持続可能の後には社会とか未来とかが入っていて、「持続可能な香川」っていうのがいいのかもしれないと思いながら、ちょっと迷っています。「人と自然が共生」と言わずに「環境と共生する」ではいけないのかなとも思います。</p>
増田部会長	<p>ちょっとこの、将来像の表現について御意見を伺いましょう。</p>
金子委員	<p>妹尾委員さんに言われるまで、文書のことを考えていなかったんですけど。言われてみて、例えば、香川用水があるから香川は生きておられるんですよね。これを「持続可能な香川」と限定してしまって、香川だけでは生きていけないと感じないといけないんじゃないかな。</p> <p>持続可能という言葉が出てきたのは、グローバル社会の中であって、ローカルがどういうふうな位置づけをされていくか、ローカルな社会が閉じた社会にはなっていないということが大きな理念であると思います。そうすると、「持続可能な香川」とローカルなところに押し込んでしまったら、現在の地球規模の中での香川の置かれている位置ということより、香川に焦点化されてしまい、今考えられている地球環境のことに逆行しているように感じられる。</p>
竹内委員	<p>今回計画の中になんかSDGsを中心にきていて、意見を言わせていただきます。SDGsというのは、経済界の方が一番に取り入れて、成り立っていて、多方面に広がっています。SDGsは17の目標と169のターゲットがありますが、1の貧困と5のジェンダーは、どの分野の審議会の資料を見てもありません。1と5がパタッと落とされていると思うんです。1と5というのは我々の世代を見てもわかるとおり環境学習というのは衣食住が足りて勉強をするわけです。そういうスタンスも、県として意識が低いんじゃないかと思います。</p>
藤本委員	<p>先ほどの環境の将来像の表現についてですが、次期総合計画などでも使われている言葉として受け入れていました。表現として「持続可能な社会」と同じように「持続可能な香川」という言い方をしても、私は違和感がありませんでした。</p> <p>「人と自然が共生する」についても、あえて「人」「自然」としていることから、抵抗なく受け入れていきます。</p>

勝浦委員	<p>環境の将来像の言葉ですが、やっと「持続可能な香川」という言葉が入ったなという感じです。なかなか、「持続可能」という言葉が入っていなかったので良かったなと思っています。</p>
増田部会長	<p>これ、「豊かで美しい」という現在の計画を「持続可能な」に直しているということで、確かに香川だけでいいのかっていう話もあるんですけど、これは香川県 環境基本計画なんで、よそのところまで手を突っ込んで作る計画ではないと思います。ただ、ローカルなところでの活動がグローバルな環境に繋がるという、 そういう認識を持っていると思うんです。こういう意見もあるということで、また事務局でお考えいただくということですかね。</p> <p>そういう意見を踏まえて、例えば説明文の時に、グローバルな問題を常に意識 していて、ローカルでこういうことをやっていることが繋がるとか、もっといい 言葉や表現があれば考えていただけたらと思います。</p> <p>2時過ぎましたけどもせっかくですので、鎌田委員さん、どうでしょうか。</p>
鎌田委員	<p>資料を拝見して感じたのが、施策体系のところですが、言葉が分かりづらいと 感じました。例えば資料4だと「1-2-1みどりづくりの推進」と「1-2- 2里海づくりの推進」、この二つが全体を総括する言葉な気がします。例えば、「み どりづくり」だと「2-1-4森林整備と都市緑化の推進」とまた内容が違うの か？とか。「里海づくり」で言うと「5-2-3水環境の保全対策の推進」と施策 がまた違うのかとか、ということが気になりました。</p>
秋山次長	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>例えば「みどりづくりの推進」等ここにある、森林のこと等がパッと見ただけ では区別がつきにくいといった御指摘であると思いますので、骨子案、計画の中 身を作っている中で表現について検討していきたいと思います。</p>
木村部長	<p>部長の木村でございます。</p> <p>少し補足をさせていただきたいと思います。基本目標が5つに分かれておりま して、この1番が各分野にまたがる基盤整備・地域づくりということで、ベース になる部分です。主に人材育成とか、県民参加の促進とか、そういう、人づくり の基盤になるところがあって、そのほかに2, 3, 4, 5と分野において取り組 みを進めていくところがありますので、若干被るところが出てくるということ になりますが、次長も申しあげました通り、次期の骨子案等で、書き分けていけ たらと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
増田部会長	<p>実は、午前中に自然環境部会がありまして、みどりの基本計画は金子委員さん が部会長で、森林や都市緑化、いわゆる緑地などの緑に関することは具体的な議 論はそっちでやるんですよ。</p> <p>重要なものは、環境基本計画にも入れてくることになっているんですね。それ で、この環境基本計画だけ見ると不十分になるとか、おかしいだろうというところ</p>

<p>吉田委員</p>	<p>も出てくるかと思うんですが、みどりの基本計画がありますので。 吉田委員さんにかありますか。</p> <p>環境の将来像の表現についてですが、「持続可能な香川」という言い方に、私は違和感がありませんでした。言葉のまま受け入れています。</p> <p>資料以外のことなんですが、私は商売をしていますので、7月からのレジ袋が有料化になりまして、ごみがたぶん少なくなるだろうと思います。</p> <p>坂出商工会議所で、不用品をネットで分けあつてできるだけロスを減らすという、ごみを減らす活動をしています。</p>
<p>増田部会長</p>	<p>3月1日からマルナカでレジ袋を有料化しましたので、途端にマイバッグとかマイバスケットとかを使うようになりました。私の家もそうですけれど。強制的にそうになっていくと、プラスチックを少なくせざるをえない。あるいはお金を出してレジ袋を買おうかっていう人も減ってくるんだろうと思う。それは、企業活動なんかもありますし、行政の方からある程度こうだよという筋道をつけると、一般の人もそれについてきてくれるということもあると思います。</p> <p>そういうことも施策の中で、展開していただけるかと思います。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>環境の将来像の表現についていろいろと御意見を頂きありがとうございます。私自身もいいアイデアが浮かばず、皆さんの御意見を伺いたかったんです。</p> <p>一つだけ気になっているのは資料7とかに出てくる、「プラスチックごみ対策の推進」ということなんですが、プラスチック問題というのはプラスチックごみだけなのかなと思ひまして。プラスチック製品自体を削減しないとイケないと思います。これは消費者教育でもあるんですけども、「ごみではなくて資源です」とかモノの材料、素材についてきちんと理解をすればプラスチックを減らす行動につながりやすいと思います。</p> <p>教育の問題でもあるんですが、プラスチック問題はごみ問題だけではないとどこかにあれば。プラスチック製品ではなく紙とか別のものを使うとか。イベントでも発泡スチロールでないものを使っているところもありますし、海外に行った時には木のトレーやスプーンを使い、しかもデポジットだったということがありました。そういう取り組みに参加してみるだけで、どうしてこういうことが行われているのかということや、これが循環するんだな、とかそういうことにつながっていくので、学びをつなげていける取り組みになっていくと思います。</p>
<p>廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>廃棄物対策課長 平池です。</p> <p>そもそもプラスチックを使わないようなことを、行動や学びの中でお伝えできないか、ということだと思うんですけども、プラスチックは非常に便利で、軽く、適度な強度があるということで広がっている中で、それをすぐに全部取りかえることは、なかなか難しいかなというふうに思っております。</p> <p>一方、おっしゃるように、そもそもプラスチックごみを、計画の中で発生抑制に取り組みたいということも考えており、そもそもプラスチックを使わなければ、</p>

<p>増田部会長</p>	<p>そのごみは発生しないと思っております。日本でも、スターバックスで、プラスチックを使うストローを使わない取組みをしているというようなことも聞いております。</p> <p>おっしゃる点について、廃棄物処理計画等の中で、プラスチックを使わない行動や学びをどういうふう到我々が提案していけるかということは、検討したいと思っております。</p> <p>そういう意味では、海のマイクロプラスチックも世界的な話題になっていると思います。里海大学とか里海づくり、海ごみ、プラスチックごみということで、教育含めて一体的に、県の行政を進めていただきたいと思います。</p>
<p>勝浦委員</p>	<p>プラスチックごみに関連して。容器包装抑制、3R推進マイスターというのをしております、全国で各都道府県1人または2人で、香川では私だけです。</p> <p>多分、県の方に御連絡がいつていると思うんですけど、3Rマイスターっていう名前になるかどうかはわからないんですが、3Rのこと、容器包装を抑制するそれを各都道府県に下ろし、そこで委員を募っていく話が出てると思っています。</p> <p>3Rのことを学ぶ人に、先生がおっしゃっておられた「学びの場」っていうのを提供していただいて。1人だったので全然進まないということがあったんですが、そういう人を広く香川県でもつくり進めていただいて、容器包装の中身を勉強していただいて。神戸大学の学生さんとも交流して容器を削減するというのもありました。また、スーパーで意識を持ってもらうということをやっております。</p> <p>これからできる組織もそういうふうになってほしいと思っています。</p> <p>だいぶ前に聞いたんですが、県がリユース容器をイベントで使ったことがあるんですね。私もグリーンコンシューマーで利用しましたが、もっと広めていただけたらと思います。容器が散乱することもないと思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>ちょっと余談ですけど。マスクみんなしてますね。鼻のところの針金みたいなのは、ごみとしてどなんになるんな。燃やせるごみなんな。何億枚もある。</p>
<p>廃棄物対策課 平池課長</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>まず3R推進マイスターの件ですけども、おっしゃるとおりで、私どもの方も、プラスチックごみの取組ついて、容器については今後どうやっていくか。日本では、ワンウェイプラスチックの利用というのが、世界で2番目に多いということでございまして、香川県でも非常に定着してしまっていると思います。</p> <p>来年度以降なんですけれども、例えば、まずは市町と連携して、先ほどおっしゃっていましたスーパーで出てくるごみについて、どのように処理、再利用されているかというところを実態調査したいと考えております。</p> <p>ご提言のありました3R推進マイスターも、その結果を踏まえまして、連携というか、できることについて検討していきたいと思っております。</p> <p>2つ目に県のイベントで使っているリユースの容器についても、プラスチックごみ対策の推進の中で、リユース容器をどのように使用ができるかということ考</p>

えて参ります。

マスクの件ですが、家庭からこういうマスクが出た場合は、各市町で、マスクに限らずですが、分別していただいて、燃えるゴミと、金属の部分があれば高松なら破碎ごみと、そういう分別していき、処分するということになります。金属ですと、高松では月に2回ほど収集される破碎ごみということで、処分するという事になるとは思いますけども、各家庭でどこまで徹底してできているかについては、なかなか不十分なところあるとは思いますが、市町さんと意見交換をする機会がありますので、ちょっとそのあたり話をしてみて、分別の管理についてどういことができるか考えたいと思います。

増田部会長

鼻のところから針金を抜いてね、こっちは破碎ごみって出来るかっていうとなかなかできないね。今、日本中でマスクを使っていますから、マスクについてはこういうふうにするといよいよっていう周知を市町からするとか、そのまま燃えるゴミに捨てても焼却できますよとか周知すればいいと思うんだけど。まさに環境行政としてはいいと思います。

前回は申し上げましたが、前回はお茶が紙コップでした。里海大学協議会では昔ながらの、湯呑茶碗にお茶をついで出してくれました。ペットボトルのお茶がいつも出ていましたけれど、あれはやめようということが少しずつ広がっていますから、来年度以降、県の委員会、審議会等では、ペットボトルは配布しないとか、そういうことを示していただいても、一つの姿勢になるんじゃないかと思えます。小さいことですけどそういうことから始めていただくと広まるかなと思っています。

妹尾委員

ちょうど飲み物の話が出たんですけど、今、マイボトルの推進ももちろん行われているんですが、県でつくられているペットボトルのお茶を、間伐材が一部入ったエコ商品に変えるとか。それは紙製の缶みたいな感じでストローもいらないうものなんですが、そういうものに大きく変えて、それは紙なのでメッセージも書きやすいので、環境条例とかエコ川柳とかでみんなに参加してもらおうとか。大胆な開発というか、製品を県で開発するとかやっていたら面白いと思います。

あと、マスクは基本プラスチックですよ。これは紙ではなくて、ポリプロピレンとかポリエチレンとか基本プラスチックなんです。だから、再利用するために熱湯に入れたり電子レンジに入れたりしたら溶けちゃったとか、私の学生のお父さんが消毒するって、洗ってアイロンかけたらべたっとなっちゃったとか、そういう話を聞いて、私も授業でこれはプラスチックだよってやるんですけど。素材をいろいろとみるということも教育なんです。

増田部会長

素材がいろいろある。リサイクルできるプラスチックごみではない。

妹尾委員

容器包装のプラスチックではないですね。

<p>増田部会長</p> <p>妹尾委員</p> <p>廃棄物対策課 平池課長</p> <p>勝浦委員</p> <p>増田部会長</p> <p>司会 (石川副課長)</p>	<p>再利用は難しいのかな。やっぱり焼却処分かな。</p> <p>それだったら、布のマスクを洗ってきちんと乾かした方がいいとか。医療用はいけませんが。最近布マスクが運動のように広がっています。私も普段は布マスクをつけています。足りなくてマスクがない人のために、苦し紛れにいろんなやり方があるともいわれています。</p> <p>御意見ありがとうございます。</p> <p>一つ目の、何か新しいプラスチックを使わない、もしくはプラスチック使用量を削減できるような商品をつくれないうか、大胆なことができないか、ということですけど、今、我々、まずは着手をしようとしているプラスチックごみ対策の中で、商品化しているのは、難しいかなと思っています。</p> <p>一方でやはり先ほどお話のありましたペットボトルの代わりに、紙パックのお茶やジュースが、販売されております。そちらの方を利用すればプラスチックごみの発生抑制、CO2削減になると考えられますので、まずはそういったところから取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>先生のおっしゃっているのは、間伐材が使われております。そういうものを使っていたら一番いいと思います。</p> <p>そのあたりは、みどり整備課長さんもおられますし、今日はなかなかその議論にはなりません、計画の中に盛り込めるものがあればお願いします。あるいは、県が実行できることがあれば、やっていただけたらと思います。</p> <p>議論がいろいろ白熱しました。今日は短時間で終わってくれということでしたが、重要なことでしたので。私も認識を新たにすることがありました。</p> <p>言い残したことはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>いろいろ御意見ありがとうございました。</p> <p>今日の議題としては基本目標及び施策体系についてということで、政策の展開のところのいろんな活動でありますとか、「環境の将来像」等の表現についてもいろいろ御意見いただきましたけれども、そこについては事務局でまた御検討いただくということで、基本的な基本目標及び施策体系については、今日原案のところ認めていただいたということによろしいでしょうか。</p> <p>具体的な施策の展開ということについては先ほどの御意見等を含めて、次までに事務局で考えておくということにさせていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>じゃ、最後に事務局から連絡あります。</p> <p>次回の計画部会につきましては、6月5日金曜日の13時から県庁12階の会議室で開催させていただく予定ですので、引き続きよろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
--	--

増田部会長	多分、次の会は通常通り開けると期待しておりますけれども。 どうもありがとうございました。皆様、熱心な御意見ありがとうございました。 それでは、これで終了したいと思います。事務局にお返しします。
司会 (石川副課長)	ありがとうございました。 以上をもちまして、香川県環境審議会計画部会を終了いたします。 本日はどうもありがとうございました。

部 会 長

署 名 委 員
